

表3 WHOの機能障害、能力低下、社会的不利の定義と特徴（WHO, 1980）

障害区分	定義	特徴
機能障害	保健活動の経験のなかでは、機能障害とは心理的、生理的または解剖学的な構造または機能のなんらかの喪失または異常	機能障害は、一時的または永続的な、喪失または異常によって特徴づけられる。ここには四肢、器官、組織、または精神機能系を含むその他の身体構造の奇形、欠陥、喪失も含まれる。機能障害は病理的状態の顕在化（exteriorization）を示し、原理的に器官レベルの変調（disturbances）を表す。
能力低下	保健活動の経験のなかでは、能力低下とは、人間として正常とみなされる方法や範囲で活動していく能力の、（機能障害に起因する）なんらかの制限や欠如	能力低下の特徴は、人々が通常行っている活動遂行や行動が過剰であったり不足していたりすることである。ここには一時的または永続的なもの、可逆的または不可逆的なもの、進行的または退行的なものが含まれる。能力低下は機能障害の直接的な結果として起こり、あるいは身体的感覚的またはその他の機能障害に対する個体の反応、特に心理的な反応として起こる。能力低下は機能障害の客観化（objectification）を示し、人間レベルの変調（disturbances）を表す。 能力低下は、一般に日常生活の基本的要素とされている複合的な動作や行動の能力に関係している。たとえば、適切な態度での行動、身辺処理（排泄のコントロール、清潔や食事の能力など）、その他の日常生活動作、そして（歩行などの）移動動作などがうまくできないことが含まれる。
社会的不利	保健活動の経験のなかでは、社会的不利とは、機能障害や能力低下の結果として、その個人に生じた不利益（disadvantage）であり、その個人にとって、（年齢、性別、社会文化的因子からみて）正常な役割を制限されたり妨げられたりすること	社会的不利とは、ある個人の状態や経験が標準からかけ離れている場合に、その状態や経験に対してなされる価値評価にかかわるものである。あるいは、その個人の活動や状態と、その個人自身あるいは彼の属する特定のグループの期待との間に見出される不一致として特徴づけられる。社会的不利とはこのように機能障害や能力低下が社会化したものであり、個人にとっての、文化的、社会的、経済的、環境的な結果を表す。 不利益はその個人の世界がもつ期待や標準に合わせることに失敗したり不可能だったりするときに生じる。社会的不利はこのように“生存するための役割”と呼んでもよいような役割を果たすうえで障壁（interference）があるときに生じる。

[文献2より改変]

表5 ICIDHとICFの比較（大項目分類）

	ICIDH (1980)	ICF (2001)	
	機能障害の分類	心身機能の分類	身体構造の分類
機能障害	知的機能障害 その他の心理的機能障害 言語障害 聴覚前庭系の機能障害 目の機能障害 内臓障害 骨格系の機能障害 変形による形態異常 全身性・感覚性およびその他の機能障害	精神機能 音声、会話、聴覚、前庭機能 見る機能 他の感覚機能 心臓、呼吸器系機能 消化、栄養、代謝機能 免疫学的・内分泌学的機能 泌尿・生殖器系機能 神経筋骨格系と運動関係の機能 皮膚とその関連構造の機能	脳、脊髓に關係する構造物 発声・会話に關係する構造物 耳と前庭の構造物 目の感覚構造物 循環、呼吸器系の構造物 消化器、代謝系の構造物 免疫・内分泌の構造物 泌尿・生殖器に關係する構造物 運動に關係する構造物 皮膚とその関連構造物
能力低下	行動能力低下 コミュニケーション能力低下 個人ケアの能力低下 移動の能力低下 身体配置の能力低下 器用さの能力低下 状況の能力低下 特殊技能能力低下 その他の活動制限	活動と参加の分類	
社会的不利	オリエンテーションに関する社会的不利 身体の自立に関する社会的不利 移動性に関する社会的不利 作業上の社会的不利 社会統合の不利 経済的自立の社会的不利 その他	環境因子のリスト	
環境因子		生產品と用品（食品や衣類、車、仕事用機械、スポーツ用具、建物の設備など）、自然環境と人間がもたらした環境変化（自然、人口、住民、動物、気候、災害など）、支障と関係（家族、友人、隣人、権威のある人々、ペット、保健専門家など）、態度（家族や友人、地域の人の態度、社会的態度、イデオロギーなど）、サービス・制度・政策（各種公的・私的サービス、行政制度、行政機関による規則など）	

表6 ICIDHとICFの特徴の比較（WHO, 2001 ICF）

	ICIDH (1980)	ICF (2001)
基本要素の名称の中立的用語への変更	疾患あるいは変調、機能障害、能力低下、社会的不利；障害のマイナス面のみという批判があった。	健康状態、心身機能・身体構造、活動、参加；人間生活をプラスもマイナスも含め総合的にとらえる立場から中立的な名称を用いた。
基本要素間の相互関係の多次元化、双方向性	一見すると機能障害、能力低下、社会的不利の3つの次元が直線的で示された矢印から一方向性をもつようにもとられるが、解説では互いに独立な複雑な関係をもち、結ばれている線は、問題解決に必要な情報の系列を示している。	健康状態、心身機能・身体構造、活動、参加、そして新たに加わった背景因子としての環境因子と個人因子は、相互に複合的な関係をもち双方向性の矢印でつながれている。
背景因子としての環境因子と個人因子の付加	両因子とも記載されていない。	障害は、健康状態と背景因子としての環境、個人との間の相互作用ないしは複合的な関係であるという立場から図に加えられ、環境因子についてはリストがつけられた。

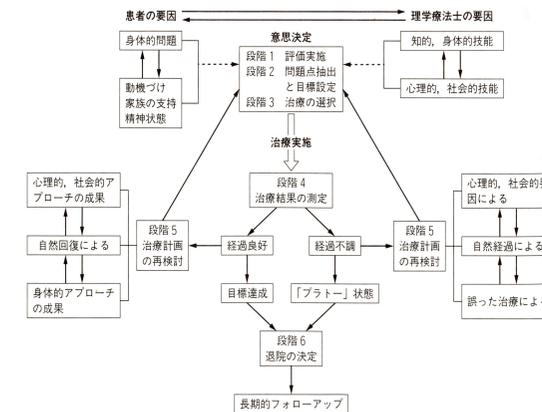


図5 Holdenによる理学療法の意志決定のモデル（Holden^{31）による、一部改変）}

血圧測定の方法

〔測定の方法〕

1. マンシェットを巻く: カフが上腕動脈にかかるように巻き、マンシェットの下の部分がひじの2~3cm上になるようにする。この時マンシェットと皮膚の間に指が1~2本入る程度にする。
2. 測定側の肩を下げさせ、ひじから先の力を抜き、手指を開き前腕を伸ばして楽にさせる。腕が心臓と同じ高さに来るようにする。
3. 触診法で収縮期血圧を推定する: 検者は指(人差し指・中指・薬指)で橈骨動脈に触れながら、マンシェットに送気し、脈拍が触れなくなってからさらに20~30mmHg高くなるように上げ、その後、脈拍ごとに2~3mmHgの速さで水銀柱が下がるように排気弁をゆっくり開く。最初に拍動を感じたときに目盛りを目の高さで見、その値が収縮期血圧となる(触診法では収縮期血圧しか測定できない)。その後、マンシェット内の空気を完全に抜く。
4. 聴診法で測定する: 上腕動脈を触知し、聴診器をマンシェットの下の部分2cm内側に軽く密着させる。送気は触診法の推定血圧値より20~30mmHg上に上げ、ゆっくり下げながら最初に血管音(コロコフ音)が聞こえてきた時に目盛りを読む(この時が収縮期血圧)。さらに下げてゆき、最後に血管音が消失したときの目盛りを読む(このとき拡張期血圧)。
5. 測定終了後、マンシェットをはずし、腕を楽な状態にさせる。

	第1部:生活機能と障害		第2部:背景因子	
構成要素	心身機能・ 身体構造	活動・参加	環境因子	個人因子
領域	心身機能 身体構造	生活・人生領域 (課題, 行為)	生活機能と障害 への 外的影響	生活機能と障害 への 内的影響
構成概念	心身機能の変化 (生理的) 身体構造の変化 (解剖学的)	能力 標準的環境にお ける課題の遂行 実行状況 現在の環境にお ける課題の遂行	物的環境や社 会的環境, 人々 の社会的な態度 による環境の特 徴がもつ促進的 あるいは阻害的 な影響力	個人的な特徴の 影響力
肯定的側面	機能的・構造的 統合性	活動 参加	促進因子	非該当
	生活機能			
否定的側面	機能障害 (構造障害を含む)	活動制限 参加制約	阻害因子	非該当
	障害			

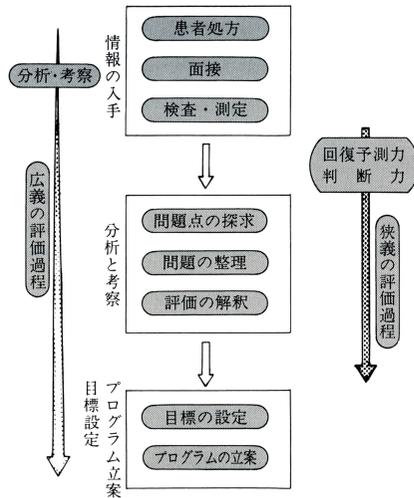


図 1-1 評価過程

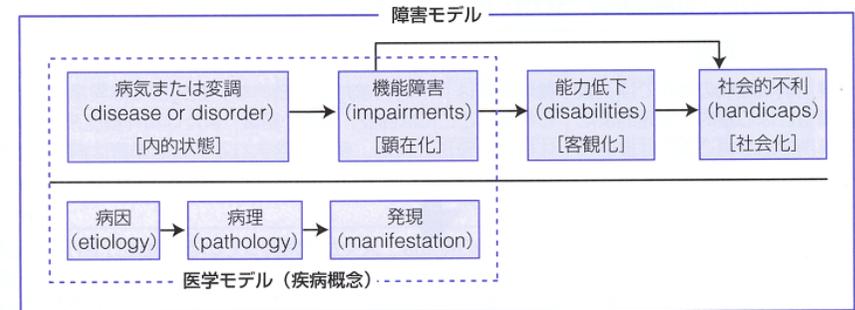


図 1 医学モデルと障害モデル (WHO, 1980)

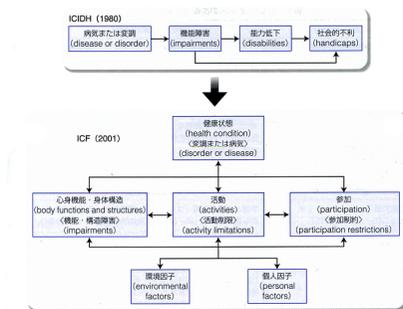


図2 国際障害分類 (ICDH) と国際生活機能分類 (ICF) の概念モデル

表4 各要素の定義 (操作的定義)

要素	定義 (操作的定義)
心身機能・身体構造 (body functions and structures)	脳筋は生理学的、心理学的な心身の機能。後者は器官や四肢などの解剖学的な部分とその組み合わせからのもの
機能・構造障害 (impairments)	心身機能や身体構造の異常な個位や欠損による問題
活動 (activities)	課題や行為の個人による実行のこと
活動制限 (activity limitations)	個人による活動の遂行の困難さ
参加 (participation)	生活・人生場面へのかわかりのこと
参加制限 (participation restrictions)	参加の次元は社会であり、その社会的レベルにおける健康状態の結果を示す。個人がなんらかの生活・人生場面にかかわるとき経験する困難さであり、環境や個人という背景因子により生じたり拡大したりする。その社会や文化において障害のない人に期待される参加状況との比較による相対的なものである。
背景因子 (contextual factors)	外的な環境因子と個人因子により構成される。
環境因子 (environmental factors)	人々が生活し、人生を送っている物理的な環境や社会環境、人々の社会的な態度による環境などの外的世界のあらゆる側面をいう。
個人因子 (personal factors)	年齢、性別、社会状況、人生経験などの個人に関連した背景因子
障害 (disability)	機能・構造障害、活動制限、参加制限の包括用語。個人とその人の背景因子との相互作用のうち否定的側面を表す。

図2 ICFの構造

